



NPO 法人新潟水辺の会・第9回通常総会の概要報告

代表 大熊 孝

新潟水辺の会の第9回通常総会が、この7月11日(土)に、新潟駅前の来々軒ビル5階のロイヤル日本海のフロアを借りて行なわれましたので、その概要を報告します。今まで総会報告は、「水辺だより」に載せることはなく、別冊で議案書などを郵送しておりましたが、これからは記録に残していくことも考慮して、ここで概要報告をやり、細かい報告や新年度の事業計画、決算、予算などは後ろに一括掲載することにしました。

まず、第8期の事業では、地球環境基金からの助成金を3年継続でいただき、サケの復活を信濃川の環境改善の象徴として、サケ稚魚放流を長野県まで行ってやってきたことが特筆されます。(この3月の稚魚放流は4箇所で合計20万尾でした)。この助成もこの3月で終わり、4月からは三井物産環境基金から助成金を3年継続でいただくことになり、第9期以降の中心事業としてサケ復活事業は継続されます。(この水辺だよりの23頁に三井物産環境基金を使ってやったサケ稚魚の水力発電機通過生存率実験を「水力発電タービンを通してサケ稚魚は生きていた」と題して報告してあります。)また、横山通さんを中心に行なわれている通船川の舟による川掃除も昨年度から引き続き、今年度の中心事業の一つです。

今回の重要な議案として、役員の変更がありました。代表は、そろそろ交代時期だと思っておりますが、引き続き大熊がやることになりましたので、よろしくお願いたします。副代表の進直一郎さんは、諸般の事情で辞任され、相楽治さんが副代表に就任されました。なお、石月升さん、梶瑤子さんは副代表留任です。相楽さんの後の事務局長には、いつも事業推進で獅子奮迅の活躍をされている加藤功さんをお願いいたしました。また、いつも名簿の管理や水辺だよりの編集、水辺の会運営協力金の担当など雑務

を引き受けてくれている森本利さんに事務局次長になっていただきました。世話人は、数人辞退があり、合計31人になりました。また、監事は、香田和夫さん、中村吉則さんに引き続きお願いしました。

さらに、新たに水辺の会に顧問を置くことになりました。世話人会に諮り、顧問には下記の方々をお願いし、全員こころよくお引き受けいただきました。西村さん、篠田さん、森さんは現在の要職につかれる以前から水辺の会会員であり、その後もいろいろ当会の事業にご協力いただいております。C.W.ニコルさんは、発足間もない頃のシンポジウムや佐潟でのハス取り大会、アフターの森見学などでご協力いただき、ずっと会員になっていただいております。内山さんは、当会の節目の記念シンポジウムに御参加いただき、記念講演や鼎談などでNPOのあり方にさまざまな提言をいただけてきました。佐藤修さんも当会のシンポジウムに参加いただき、サケ稚魚放流などではいろいろと助言をいただいております。山道さんは、当会発足時に「よこはまかわを考える会」の精神をお伝えいただき、その後は「川の日ワークショップ」などを通じてさまざまな助言をいただけてきました。

その他、詳しくは後段の総会報告をお読みください。

[顧問](順不同、敬称略)

西村智奈美:衆議院議員

篠田昭:新潟市長

森民夫:長岡市長

C.W.ニコル:作家

内山節:哲学者

佐藤修:株式会社コンセプトワークショップ代表

山道省三:NPO 法人全国水環境交流会理事長

(役職等は総会開催時点のものです)

■水辺レポート

report
第9回通常総会の報告

平成 21 年 7 月 11 日 (土) 午後 3 時～ 4 時。新潟駅前米来軒ビル 5F ロイヤル日本海を会場に第 9 回通常総会開催。定足数は会員数 211 名 11 社の委任状 100 名、39 名出席 139 で 10 分の 1 以上なので成立し開会しました。以下議決概要を報告します。

■第 1 号議案 H20 年度第 8 期活動事業・決算報告の議決 (H20.6.1～H21.5.31) ⇒承認されました。

昨年度は、下記の表のような取り組みを行いました。大きな事業は地球環境基金助成を受けながら『サケの遡上できる信濃川・千曲川の復活活動』と『つくり市民会議事業』を軸にした事業、その他の流域連携や川まちづくりを行いました。

■第 8 期の事業報告一覧

(1) 信濃川復活調査プロジェクト	●地球環境基金●シンポジウム●三井物産環境基金●こしじ水と緑の会助成金
(2) 通船川・栗ノ木川下流再生の取り組み	●栗ノ木川桜祭り●通船川そうじ船●通船川河口川港検討●川の緑化●小阿賀野川カヌー下り●つくり市民会議
(3) 身近な水辺環境の全国一斉水質調査事業	●第 5 回水質調査
(4) 佐潟保全活性化事業	●佐潟クリーンアップ●KODOMO ラムサール
(5) 源流を訪ねるツアー	●秋の菅名岳山歩き
(6) 水都にいがた連携・創造事業	●萬代橋景観フォーラム 08 ● NPO 五泉トゲソの会支援●越後新川まちおこしの会支援●粟島活性化計画●新潟市環境フェア●第 28 回全国豊かな海づくり大会●AFS 協会留学生講座支援●堀割再生まちづくり新潟●秋葉湖カヌー体験乗船会支援
(7) 上下流情報・交流事業	●信濃川考流会
(8) 全国水環境情報・交流事業	●全国川の日ワークショップ●水郷水都全国会議東京大会●川の全国シンポジウム 2008
(9) その他の報告	●大熊代表受賞：日報文化賞●国際ソロプチミスト新潟から環境貢献賞を受賞●委員会参加：信濃川河川整備計画学識者下流部会 & 新潟県二級河川整備懇談会
(10) 事務局より	●水辺だより、HP 情報発信●定例世話人会●新会員紹介●水辺協力金

■第 2 号議案 H21 年度第 9 期活動事業計画書の議決 (H21.6.1～H22.5.31) ⇒承認されました。

本年度の第 9 期の事業スケジュールと重点事業計画書 (★ 自主助成事業や受託事業) は、三井物産環境基金助成の信濃川・千曲川事業とつくり事業が柱となります。

■第 3 号議案 H21 年度第 9 期収支予算書の議決 (H20.6.1～H21.5.31) ⇒承認されました。

重点事業として、ページ右下の表の事業を上げます。

1 信濃川復活調査プロジェクト

★信濃川の宮中ダム・西大滝ダムを通過できれば、千曲川支川の鳥居川にもサケは遡上しうるので、是非、鳥居川上流域で事業を展開している C.W. ニコル・アファン森財団と協力してサケ稚魚放流を鳥居川で行ないたい。その際、可能であれば、アファンの森を見学したい。(代表 大熊 孝)

2 身近な水辺環境の全国一斉調査事業

★第 6 回の水質調査が 09 年 6 月に行われた。今年は亀田郷土地改良区の調査参加もあり 26 団体、230 名で 344 地点の調査が行われたが、全体的に COD の高い地点が多い。これまでは都市部が悪かったが、農村部の水質も悪化している。(世話人 加藤 功)

3 通船川・栗の木川再生事業

①春の栗ノ木川桜祭り乗船体験・毎春の桜祭り乗船体験を進化させていくために、万代高校生のより参画しやすい条

事業種別	事業名称と事業内容	実施予定時期	実施予定場所
・ 宣伝事業	・ 季刊水辺だより発行	3 回 / 年	全国に発信
・ 流域連携事業	・ ★信濃川復活調査プロジェクト 横断工作物の水環境調査など	通年	信濃川・千曲川
・ 人材養成事業・人材養成支援事業	・ かわ塾 (船頭養成講座) 開催 ・ 観光ガイド講座参加 ・ 環境子ども会議	通年 09. 秋 09	通船川・河川 長岡 通船川
・ 水辺再生支援事業	・ 栗ノ木川祭り板合せなどの乗船体験 ・ 通船川川祭り ・ ★つくり市民会議 ・ 川の日 WS : 児童 & 世話人派遣支援 ・ 通船川川掃除船：免許助成 ・ ★身近な水辺環境の全国一斉調査 ・ 佐潟クリーン活動支援	09.04.19 09. 7 月 09.09.12 08.09.21 春～秋 09.06.07 5 月	栗ノ木川 通船川 沼垂小 東京・代々木 通船川 県内河川 佐潟
・ 魅力発見事業	・ 水辺シンポジウム + 水辺賞 第 7 回、第 8 回サケシンポ ・ 信濃川川舟上り下り調査	09.9 10.2 09	新潟市 信濃川・小阿賀野川
・ 連携協働事業	・ 萬代橋景観まちづくり連携事業 ・ (仮)「粟島物語」研究支援事業 ・ 信濃川考流会 ・ KODOMO ラムサールなど ・ 第 8 回早出川清流スクール ・ 新潟市環境市民会議 ・ 新潟市環境フェア ・ 水郷水都全国会議 & 堀割協議会 ・ 新潟市水と土の芸術祭 ・ 実行委員会やイベント会費ほか	通年 通年 09.10.03 09 09.8 通年 09. 09.10.24 通年 通年	信濃川下流 粟島・佐渡 松本案 佐潟ほか 早出川 新潟市 新潟市 県外 新潟市 新潟市内

件を整備した桜祭りの乗船プロジェクトを検討する事が必要になっている。

②つうくり川掃除船

●川掃除のこれから

★川掃除は今後、新たな住民、関係業者の参加をどう仕掛けるかという問題になっています。関係業者には個別訪問を実施し、新たな住民参加はカヌー教室、東区のタウン情報を活用しながらその目的を達成したいと考えています。川に日常的に人がいて、川掃除を実行することが何よりも川環境改善への説得力であると思います。(世話人 川掃除船長・草刈り隊長 横山 通)

●川並木管理

★川の堤防に苗木を植樹することと平行して、行はなければならぬものに枝下ろし、低木の高さ管理、偽アカシア、葛の枯殺、草刈などの管理があります。現在この作業を行う人員は皆無ですが、日当をつけるなどの手法をとれないか研究したいと思います。これらの作業は熱中症を伴う作業であり、適度の休憩、日当は必須だろうと考えますが、このお金をどう工面するかが分かれ道であるようです。(世話人 川掃除船長・草刈り隊長 横山 通)

●小阿賀野川下り

★小阿賀野川下りの経験を積むために今年は人員がそろえばいつでも実行する気持ちでいますが、経済状況が厳しいこともあってなかなか人が集まらない状況です。無理をする必要はありませんが、たまには川で遊びたいものです。(世話人 川掃除船長・草刈り隊長 横山 通)

③つうくり市民会議

★近年の行政改革がらみから事業予算の見直があり、21年度は前年比の約1/2となった。従って、当会議の運営についても見直しを図る必要に迫られている。せつかく企業、高校生の参加者が見えた中での予算減少は、大きな痛手である。今年は、当会議も大きな改変の年となることでしょう。

■第4号議案 顧問設置にかんする議案の議決 ⇒承認されました。

●定款第16条の改正案【現行】役員任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。を、【改正後】役員任期は、選任された日から2年後に次の役員が選任されるまでとする。ただし、再任を妨げない。

●定款53条に基づき、細則として「顧問設置」を設ける。【細則1】. 当会に顧問を置くことができる。顧問は代表が提案し世話人会の承認を得て依頼する。顧問は、当会からの依頼に応じた課題について提案、提言をおこなう。顧問は、任期を定めない。顧問役解任は両者の協議で決定する。顧問は、会費納入の義務を負わない。

■第5号議案 満期役員改選案の議決 ⇒承認されました。

第7～8期(H20.6.1～H21年5.31まで)の任期満了に伴う改選期です。第9～10期案です。(H21.6.1～H23年5.31)改選世話人31名、監事2名の体制で取組みます。代表は大熊が継続、進副代表が辞任し、相楽が副代表に、加藤が事務局長、森本が事務次長に就任となりました。ご支援ご協力をよろしく申し上げます。

名前	役職や役割	名前	役職や役割
1 大熊 孝	◎代表・美しい水辺再生研究活動の総括指揮	16 相楽 治	◎副代表・渉外・水辺起業事業研究
2 浅井 敬一	税理評価、組織制度指導・つうくり再生事業	17 佐藤 泰雄	企画・通船川再生事業
3 安藤 喜佐子	総務・大会企画支援・つうくり再生事業	18 菅野 隆之	企画・サケの信濃川復活事業
4 石月 升	◎副代表・サケの信濃川復活事業総括指揮・監修	19 戸枝 邦子	◎会計・総務・子どもの体験指導
5 榎本 国男	企画・情報・交流・水辺起業事業研究開発	20 長井 一義	企画・上下交流・大会企画支援
6 大熊 宏子	総務・大会企画支援	21 土方 幹夫	企画・国際交流・水辺体験指導
7 大崎 信子	総務・大会企画支援	22 星島 卓美	企画・つうくり再生事業・子ども環境会議指導
8 小船井 秀一	企画・情報・出版編集指導	23 松野 直一	企画・つうくり舟運指導者養成指導
9 梶 瑠子	◎副代表・大会企画進行・PR指導	24 丸山 芳	企画・つうくり再生事業・子ども環境会議指導
10 加藤 功	◎事務局長: 企画・情報・総務・会計	25 皆川 袈裟雄	企画・堀と鳥屋野湯再生事業研究
11 金田 英一	企画情報・渉外・水辺起業事業研究開発	26 森本 利	◎事務局長: 総務・水辺だより・基金管理
12 風間 善浩	企画・国際交流・サケの信濃川復活事業	27 安田 幸弘	企画・つうくり再生事業・つうくり舟運
13 上山 寛	企画・多門川ほか水都再生・建築	28 山岸 俊男	水辺再生企画・つうくり再生事業
14 栗原 道平	企画・舟運・ツーリズム等水辺起業事業研究開発	29 山田 淑子	企画・つうくり再生事業・つうくり舟運
15 香野 哲大	企画・サケの信濃川復活事業	30 横山 通	企画・つうくり緑保全再生事業・つうくり舟運
		31 和田 日期	企画・源流登山ツアー指導
◆監事一覧			
1 香田 和夫	監査・市民環境会議・緑保全	2 中村 吉則	監査・水辺起業事業研究

■議事:

この中で、水辺海外ツアー企画の実施、スタッフジャンパーの制作とイベントでの着用、長年活動協力のある議員や市長、CW ニコル氏などの顧問就任依頼、中間支援法人としての期待、意見、提案がありました。いろんな転換期にあるこの一年美しい水辺の保全や復元、創出を楽しみましょう。

副代表 相楽 治

report

水力発電タービンを通してサケ稚魚は生きていた！

—サケ稚魚の水力発電機通過生存率実験報告—

新潟水辺の会として、長野県まで行ってサケの稚魚を放流し始めて3年がたつ。だが、長野・新潟県境付近の千曲川には西大滝ダム(東京電力)、信濃川には宮中ダム(JR東日本)があり、それぞれ日本有数の水力発電を行っており、稚魚のほとんどがその発電機のタービンを通して全滅するはずで、稚魚の放流は無駄であるという批判を受けている。

そこで、稚魚がタービン通過で本当に全滅するかどうか、実験してみようということになった。一番の問題は、タービンを通してきた稚魚をどうやって回収するかであるが、われわれがやりうる規模は放流量が少ない発電所に限られる。実験で借りた発電所は加治川水系内の倉川赤谷発電所(図1参照)であり、最大流量 $2.55\text{m}^3/\text{s}$ 、落差49m、水路鉄管長208mで、タービンは横軸フランシス型(写真1参照)である。石月升さんを実験隊長とし、合計10人の参加で、4月29日に実施した。

稚魚の回収は放流口の下流に写真2のようにネットを張り、1匹も洩れのないようにした。実は、これが大変で、ゴミが引かかるとすごい水圧になり、人力でネットを制御するのは大変難しいのである。

稚魚数は、写真3のように1匹1匹数えた。放流は4回に分けて行われたが、放流総数は930匹であり、そのうち捕獲できたのは444匹、残りの486匹はどこかに行ってしまう、確認できなかった。

た。捕獲総数は444匹で、そのうち生存していたのは192匹であり、444匹に対する生存率は43.3%であった(表1参照)。死亡した稚魚の姿は綺麗な



写真2・放流口のネット張りでの稚魚回収



写真3・魚の数を数える



写真1・横軸フランシス型タービン



写真4・回収した稚魚の餞別

ものや、千切れてしまったものがあった(写真4参照)。生存していた稚魚は持ち帰ったが、4月末で水温が稚魚の適温である13℃以下が保てず、2日目にはすべて死亡した。今度は2月か3月、雪が深いかもしれないが、この実験をやり、生存稚魚がどれくらい生き残れるのか確認したいものである。

いずれにせよ、あの高圧・高流速のなかで、生存稚魚がかなりの数にのぼるわけで、自然の生命力の強さには驚いた次第である。今後は、もっと流量が大きく、高圧、あるいは2段で発電される信濃川の発電所で実験をやってみたいものである。なお、この実験は三井物産環境基金によって行ないました。

代表 大熊 孝

表1・発電機通過生存率調査

回数	放流数	捕獲数(率)	生存魚(率)	死亡・損傷無(率)	死亡・損傷有(率)
1	100匹	40匹	20匹	13匹	7匹
		40.0%	50.0%	32.5%	17.5%
2	100匹	42匹	23匹	10匹	9匹
		42.0%	54.8%	23.8%	21.4%
3	100匹	19匹	11匹	5匹	3匹
		19.0%	57.9%	26.3%	15.8%
4	630匹	343匹	138匹	163匹	42匹
		54.4%	40.2%	47.5%	12.3%
合計	930匹	444匹	192匹	191匹	61匹
		47.7%	43.3%	43.0%	13.7%



図1・加治川水系内の倉川赤谷発電所位置図

「第 14 回水シンポジウム 2009in にいがた 参加報告」 (通船川清掃舟隊活動発表)

平成 21 年 8 月 11 日(火)、新潟市万代島の朱鷺メッセで開催された「第 14 回水シンポジウム 2009 in にいがた」で、新潟水辺の会有志の活動としての『ボートを使った通船川清掃作業』について発表してきましたので、その様子を報告します。本来、川舟清掃隊長の横山さんが行うべき発表でしたが、当人所用のため代理としての参加でした。

このシンポジウムは、社団法人土木学会水工学委員会などが主催し、「水が自然や人に与えるさまざまな恩恵と諸問題について、市民・企業・学会・行政が幅広く討議や意見交換を行い、それぞれの役割を明確にしつつ連携を深めることにより、『水と人との好ましい関係』を全国に発信することを目的として」(主催者発行テキストより)本年度は新潟で開催されたものです。

11 日午前は「越後平野と治水」「住民の協同による水辺のまちづくり」など 4 つの分科会でパネル討論があり、前記 2 つの分科会には水辺の会から大熊さん、相楽さん、星島さんがパネリストとして参加されました。午後は、私が参加した市民団体等による活動発表のほか特別講演、全体会議があり、夜は懇親会、そして翌日は大河津分水と福島潟で現地見学会が行われたそうです。また二階のロビーには各団体などの活動を紹介する展示コーナーも設けられ、水辺の会からは通船川清掃船の写真パネルを出品しました。

午後 1 時過ぎから、3 つの中会議室に分かれて 18 の市民団体等の活動発表が行われました。水辺の会とかかわりのある活動発表は私のほか、沼垂小学校の「栗の木川プロジェクト」東山の下小学校の「通船川プロジェクト」通船川・栗の木川ルネッサンスの星島さん、五泉とげその会の中村さんなどが発表しました。

中会議室 201 には 80 人ほどの参加者が着席して、6 団体の発表に耳を傾けました。

トップは私で、作業風景など 16 枚の写真を紹介しながら、2007 年 6 月からの活動の概要を 5 分間(質疑も入れて持ち時間 7 分)、以下のような趣旨で

発表しました。

■通船川は阿賀野川に発して信濃川に合流する小河川で流域が水害の危険性の高い低地であるため両端を閘門でふさぎ人為的に海水面より 2m ほど低い水面を保っている。昔の阿賀野川の河道の名残である。

■通船川の再生活動はすでに 10 年以上の歴史を経ているが、「子どもたちが遊べるきれいな川に戻したい」「住民に身近な川にしたい」「舟が行きかうような川にしたい」という希望の実現には程遠い状態が続いている。こうした停滞感から、寄付して貰ったボートを使って、とにかく川に入っごみをとる作業を、きれいになるまで続けようという気持ちでスタートした。数人の有志で続けているが、区の広報などのおかげで新しい参加者も増えている。

■作業していると貯木場以外のところに放置された筏が船の通航を妨げていたり、川のほうへは町の裏側が向いているような印象が見えてきたりなど身近な川にするための課題が浮かんでくる。またボートを活用して信濃川、小阿賀野川などへのツアーも実現するなど夢を持って活動を続けていきたい。

終了後、会場へ質問感想などをもとめましたが、特に発言はありませんでした。

不勉強で、どういうシンポジウムなのかさえ知らずに参加しましたが、たくさんの参加者があり、幅広い討論の場が用意されていて感心しました。ただ、団体の寄せ集めの感もないではなく、新鮮味や議論の集中力という点では物足りなく感じたのも事実です。

世話人 浅井 敬一

report 05

水と土の芸術祭 参加作品「新川普請まるごと博物館」

「オーイ、釘を取ってくれ!」新川の初夏の風を受けて作業がつづいた。新川左岸の西川との交差点、直下流部の空き地に巨大な構造物が出現した。それは、水と土の芸術祭の参加作品として応募したが落選した。しかし、アイデアがよいのでイベントとして当選となった。そのため予算は半額、しかし作品がイベントになったからといって制作費は半分にならず、「越後新川まちおこしの会」の会員の協力のもと完成した。



西川水路橋の対岸にある「新川普請まるごと博物館」

その作品とは、江戸時代に西川の下に新川を伏せ越す木製の底樋を再現した作品と大正時代にその底樋から煉瓦、石造りに換えた暗閘を再現した作品をいずれも原寸大で制作展示した。合わせて、暗閘の銘板(実物)を探し出して展示してある。

さて、「新川普請まるごと博物館」とは、新川の歴史を語る施設や構造物が新川筋に点在しており、また当時をしのぶ風景が、ここ新川沿いに残っている。それらをまとめて体験していただける館である。即ち、この西蒲原に於ける270年前の昔の人々の苦難と克服した経緯を知っていただく、それと同時に、この地域に貢献してきた施設を時代別に再現したので、実体験することができる。

ここの館の一番は、地域の方々と一緒に冷たい飲み物などいただきながら当時の思い出話が聞ける“地域の茶の間”として利用できるようになっている。会員の西尾さんが企画実演して、土曜日などの休み日には野点のお抹茶が楽しめる。会員の誰かが在館しているので、コーヒー(インスタント)なども味わえる。どうぞみなさん、そんな館へお出かけください。

次に、新川掘削までの「くどき」を紹介しよう。

今から遡ること300年ほど前の時代、西蒲原一帯は、大小の潟が沢山、点在していた。それは新潟平野の生成過程とも密接な関わりがあり、海岸部の砂丘により全ての川が、信濃川に合流してから海に流れ出ている。従って、砂丘の内陸側は、低湿地で潟が多く存在することになった。

低湿地や潟は、排水機能が極めて悪く、大雨のたびに

つも湛水被害を被っていた。そのため西蒲原一帯は、3年に1度、米が実ればよいとあきらめるしかなかった。しかし、その様な中であって、昔の人たちは、この状況を改善するために既に考えていた。

享保17(1732)年に初めて三潟(鎧潟、田潟、大潟)の新田開発願いが幕府に出されたときに、西川の下に伏越す底樋が計画されていた。これが以降の割元・庄屋たちによる願いに大きく影響を与えた。それ以降、80年余りにわたって8回もの願いには、いずれも底樋が計画されている。

8回目の願いにより、文政3(1820)年ようやく底樋が2門埋設され、内野あQ村の高さ20mもの金蔵坂砂丘を掘割り、三潟にこもる悪水(湛水)を海へ排水できるようになった。江戸時代におけるこの工事で特筆されるのは、湧き水を汲み出すために「踏車」が5~6人並び、10段、これで約3m汲上げたこと、掘割延長約2,400間(4,500m)の内、金蔵坂砂丘811間(1,500m)の掘削量が約300,000m³の大土工を人力で成し遂げたことである。当時の人たちの「辛抱強さ」に敬服する。



慶応の底樋と、煉瓦作りの新川暗閘の再現

その後、3門増設されて排水能力を増したが、木製であるが故に洪水などの度に破壊され、維持することが困難になって、大正2年に煉瓦の9門暗閘に改築された。これが残されていれば、確実に貴重な近代土木遺産になっている。この9門暗閘も新川の流れを阻害することから、昭和30年に現在の2連トラス橋に架け替えられた。

この「くどき」の詳しいことは、「館」へお出でいただき、地域の方々との会話を楽しみながら、しばし江戸、明治、大正、昭和の「くどき」をお尋ねください。

世話人 山岸 俊男

新潟水辺イベント情報 新潟水辺の会 & 関連団体ほか

9月5日(土)

萬代橋あさひまち展示館 築 80 周年記念フォーラム
時間:13:30～16:10 会場:だいしホール
参加費:無料 定員:250名(申込先着順)
内容:講演会 大熊孝「萬代橋とまちづくり～記憶される景観の創造と市民の役割」
岡崎篤行「歴史的建築 町並みとまちづくり」
問合せ:電話(ファックス)025-227-2260(あさひまち展示館)
火水木土日 10:00～16:00

9月6日(日)

新潟市環境フェア
時間:10:00～16:00 会場:新潟市万代シテイ通り
内容:地球温暖化防止啓発ブース、行政、市民団体、事業者による活動紹介ブース、フリーマーケットなど
問合せ:新潟市環境対策課 025-226-1363

9月12日(土)

通船川・栗ノ木川再生市民会議
時間:13:30～16:00 会場:沼垂小学校体育館
内容:新潟市の水と土の芸術祭での通船川ルネッサンスのクルーズや沼垂小児童の栗ノ木川研究、万代高校端艇部の川利用、旭カーボンの取組の発表、川談義ワークショップなどで一年間の「つくり」での活動を振り返り、今後の通船川・栗ノ木川のあり方を話し合う。
問合せ:新潟県新潟地域振興局地域整備部 025-231-8302

9月19日(土)

第11回信濃川水なしサミット(NPO 法人新潟水辺の会共催事業)
時間:16:00～18:00
会場:千手中央コミュニティセンター(調整中)
内容:事例発表「大河信濃川に川の流れは戻せるか?(案)」
香野哲大(NPO 法人新潟水辺の会世話人)
パネルディスカッション:「わがふるさとの大河 これからの信濃川を考える」(コーディネーター:大熊孝(NPO 法人新潟水辺の会代表世話人))
問合せ:信濃川水なしサミット実行委員会事務局(十日町市克雪維持課)025-757-3198

9月21(月)～22日(火)

第2回いい川・いい川づくりワークショップ
時間:21日10:00～18:00 22日～15:30
会場:国立オリンピック記念青少年総合センター
内容:全体集会、全体発表会、テーマ別テーブル選考、交流懇親会、全体選考
問合せ:いい川・いい川づくり実行委員会事務局 03-3408-2466

10月3日(土)～4日(日)

信濃川考流会(NPO 法人新潟水辺の会共催事業)
内容:長野県水環境保全研究会との恒例交流会・木曾路訪問
詳細未定

10月10(土)～11日(日)

新潟市市民活動フェスタ
時間:10時10分10秒～
会場:新潟市市民活動支援センター
内容:音楽をありがとう(出演:新潟県民謡連盟、みんなに歌を届け隊、Imaginative、Eastcircle、Ka Pa Hula O Hiromi、MUSE、kussy)
問合せ:新潟市市民活動支援センター 025-224-5075

10月10(土)～12日(月)

三人委員会哲学塾 in 片品村
時間:10日13:30～12日12:00
会場:群馬県片品村越本地区
内容:自然の輝き・地域の輝き
問合せ:片品村観光協会 0278-58-3222

10月12日(月)

佐潟ヒシ・ハスとり大会
時間:9:30-11:30 会場:佐潟(新潟市西区)
内容:潟に入り産物採取体験(ぬれてもよい服装、長靴、着替えなど)
協力金:大人300円 小学生以下100円
(レンコン天ぷらなど用意しています。おにぎりご持参ください。)
主催:佐潟と歩む赤塚の会 共済:NPO 法人新潟水辺の会
問合せ:佐潟水鳥・湿地センター電話 025-264-3050、新潟水辺の会の会員は森本 090-1613-1879 まで。

10月17(土)～18日(日)

第25回水郷水都全国会議・桑名大会
時間:17日13:00～ 18日9:00～17:00
会場:桑名市役所・大会議室 参加費:無料
内容:17日全体会議、18日現地視察と「2009 長良川救済DAY」
問合せ:水郷水都事務局(宍道湖・中海汽水湖研究所):
kisuiko@mvp.biglobe.ne.jp
(企画立案に共同代表として大熊がたずさわっていますので、大熊に問い合わせも構いません。bigbear1@ymail.plala.or.jp)

編集後記:新潟市で「水と土の芸術祭2009」が開催

されています(12月27日まで)。会からは通船川や新川をフィールドに、参加しています。開催までには予算などについて紆余曲折があり、まだ終わってもいない事を評価するのは早いと思いますが、地域住民を巻き込んだ作品ややすらぎ堤のバンブーハウスなど大変魅力的なものも多くあります。十日町市を中心に開催されている「大地の芸術祭」は今回で4回目ですが、評価されてきたのは3回目頃だったと記憶しています。東京では芸術系の学生を中心に注目されており、芸術祭が縁で地域に定住した人も多いそうです。新潟の芸術祭は今後、どのような波及効果が生まれるか分かりませんが、新潟市を世界にアピールするイベントに成長する事を期待しています。

編集人:森本 利

●事務局からのお願い

インターネットメールで随時会員の皆さんに情報をお届けしています。メールアドレスを新しく持った方、アドレスを変更された方は事務局までお知らせください。

●発行:特定非営利活動法人 新潟水辺の会

●事務局

〒950-2264

新潟市西区みずき野 4-7-15 大熊 方

Phone 025-264-3191 Fax 025-264-3260

ホームページ

<http://www17.plala.or.jp/mizubenokai/>

メール mizubenokai@plum.plala.or.jp

●会員数 個人会員 203名、法人会員 10団体
(2009年8月31日現在)